

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第2回弘前市社会福祉問題対策協議会
開 催 年 月 日	令和6年3月12日（火）
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時30分 から 15時00分まで
開 催 場 所	弘前市役所 前川新館6階 大会議室
議 長 等 の 氏 名	中村 直樹
出 席 者	<p>会長 中村直樹、 委員 小川幸裕、 委員 大湯恵津子 委員 三上美知子、 委員 藤田俊彦、 委員 阿保博実 委員 稲村孝司、 委員 森山正、 委員 八木橋喜代治 委員 小林雅也、 委員 岩田安弘、 委員 崎野 雅生 委員 齋藤ひろみ</p>
欠 席 者	委員 坂本 祥一
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	<p>福祉部長 秋元 哲 福祉総務課長 秋田 美織 同課長補佐 金川 浩人 同主幹兼係長 滝口 龍之介 同主事 石郷岡 裕哉 同主事 坂口 真理</p>
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別避難計画について ・ 国庫補助事業「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」対象事業への評価・意見について ・ 弘前市社会福祉センター利活用計画案について
会 議 結 果	別紙会議録のとおり

会議資料の名称	・令和5年度第2回弘前市社会福祉問題対策協議会資料
<p>会議内容 (概要)</p> <p>事務局</p> <p>大湯委員</p> <p>藤田委員</p> <p>稲村委員</p> <p>小林委員</p>	<p>1. 開会 2. 会長挨拶 3. 報告</p> <p>(1) 個別避難計画について</p> <p>報告(1)資料に基づき、個別避難計画について、3月に開催したNHK地域ミーティングについて報告。</p> <p>【主な質疑応答】</p> <p>◎NHK地域ミーティングに参加した感想について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な方が色々な支援を必要としていることを改めて感じた。 ・福祉避難所があると、パニック障害を持つ子供などにとっては安心して避難できる場所になると思う。 <p>・地域で支援を必要としている方に、どういった支援をしたらよいか真剣に捉える非常に重要な機会となった。</p> <p>・周囲の見学者の方たちも、自分たちならどうするか考えながら真剣に見学していた。</p> <p>・災害時には自分自身や家族の優先度が高くなり、地域で支援を必要としている人に支援が届くか不安に感じていたが、今回のミーティングを通して、町会単位での地域の支援というものが、必要としている人たちに届くのではないかという希望が感じられた。</p> <p>・弘前市は災害が少ないためか、自主防災組織が少ないと感じており、もっと自主防災組織を作ることが広がってほしいと考えている。自主防災組織が無ければ、まず救助することができない。今回のミーティングを通して市民が問題意識を持つきっかけとなって良かったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害を自分事として捉えるいい機会となったと思う ・グループワークを拝見し、参加した地域の方々が一生懸命考えているのが感じられた ・弘前では大きな災害が少ないためか、自分の命を守るという

<p>議長</p>	<p>ことに対して危機感が欠如している人が多いのではないかと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の事だけではなく、近隣の人も巻き込んで協力する体制を作っていかななくてはならないと感じた。 ・動画などビジュアルで見せることによって理解しやすかった。 ・会場には実際に支援を必要とする方たちを交えて四つの町会をモデルとしてグループワークを行ったが、当事者の声を聞くことで、町会にあるどの施設に避難したら良いか、町会のどういった人が迎えに行くことが出来るかなど、具体的な場面を想定して議論することが出来た。 ・実際に社会福祉施設で働いている方の意見として、災害時には自分の施設のことだけで手一杯になるため福祉避難所の開設は厳しいといった声もあった。 ・福祉と防災はクロスして考えていかななくてはならない。 ・防災への意識を高めていくことが非常に重要である。
<p>阿保委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町会連合会でも災害時の高齢者の避難、自主防災についての話し合いは頻繁に行われている。 ・昔と異なり、近所づきあいが希薄になっているが、災害時は助け合える町会になってほしいと思っており、町会の連合会や各地区ではそういったことを伝えている。 ・若い人たちがいかに町会に携わってくれるかが重要だと思う。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ミーティングのグループワークの中でも、若い方たちが地域に参加する機会を増やすためにはどうしたらよいかといった話はたくさん出ていた。 ・ねふたをきっかけにして地域に参加する若い方は多いため、そういった弘前ならではの防災のあり方を考えていければよいのではと思った。
<p>阿保委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ミーティングの今後は。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後については11月～12月にかけて行ったモデル事業と3月9日に行った地域ミーティングの成果をもとに、全市展開

事務局	<p>していきたいと考えている。具体的な内容については今後検討を進めていく。</p> <p>4. 案件 (1) 国庫補助事業「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」対象事業への評価・意見について</p> <p>案件（1） 資料に基づき説明</p>
小川委員	<p>【主な質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の3事業は次年度以降も継続するか。 ・はい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の有無や、高齢者のみで構成されているかどうかなど、町会の状況については市内でもばらつきがある。弘前市の町会として、ひとまとめにして事業の評価をすることは難しいと感じた。民生委員が居ない町会でどのように人材育成していくかが重要であると考え、それぞれの町会にどのくらいの民生委員がいるかという情報があると分かりやすくてよいと思う。 ・可能であればそういった情報を文字だけで示すのではなく、地図等で示していただけると分かりやすい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討いたします。
大湯委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町会を解散するという話が出ている地区も聞いている。 ・町会長が民生委員を推薦するという制度になっているため、民生委員をやりたい意向があるが、推薦されない人もいる場合がある。その仕組みを改善していきたい。 ・75歳になり民生委員を辞め、民生員協力員になる人もいる。新任の民生委員のサポートもしてくれているし、新任の方が地域を回る際に同伴することで地域の方の警戒心も軽減される。そういったメリットが多いので、さらに増えてほしいと考えている。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員は地域の人と専門職をつなぐ大事な役割だと考えている。

<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地、特に郡部の方に行くが高齢化も進み、民生委員も少なく、専門職も地域に入りにくい。民生委員だけでなく町会の存続についてなど重ね合わせて考える必要がある ・除雪事業に関しては何かご意見は。
<p>八木橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み自分で除雪出来ない人は増加する。 ・大学生を対象とした有償ボランティアなどが方法の一つとして考えられるが、市は学校関係団体とどういった連携を取る予定であるのか教えてほしい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングアプリのシステムを利用した大学生の有償ボランティアはあるが、今回の評価事業については無償ボランティアについてなので、そういった有償のボランティアとの連携は組み込むことが難しい。 ・無償で除雪する団体については、掘り起こしが困難になっている状況にある。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に事業を行っている弘前市社会福祉協議会よりお話をお聞きしたい。
<p>崎野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪の支援が必要な方の名簿を作成しているが、雪がたくさん降った日は、その名簿へ登録してほしいという依頼の電話が多い。 ・あくまでもボランティアであり、何時までに行かなくてはならないなどといった決まりはないため、使命感が強い人もいればそうでない人もいるのが現状。 ・除雪してくれるボランティアの方と、除雪支援を受ける側で事業に対する考え方の違いもあるので、そこは毎年説明しながら行っており、苦情も減ってきていると感じている。 ・データ上はボランティアの協力員の数は減っていないので、地域のみなさんで助け合い、支え合っているのではないかという印象である。
<p>秋元部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先程大学生の除雪ボランティアについて話が出たことに関連して。大学生の除雪ボランティアは授業があるため、雪が降って片付けをお願いしたいときに行くことが難しい。また基本的に大学生は文京地区に住んでいることが多いため、市内の他地区に行くことは不可能であったりする。大学生の除雪ボランティアというのはアイデアとしては浮かびやすいが実際に行くと

<p>議長 八木橋委員</p>	<p>なると難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他に何かご意見がある方は。 ・自分の経験談として、自分の間口プラス1メートル除雪することを各家庭で行うことで、子どもたちの通学路まで除雪することが出来たといったことがあった。 ・町会の総会時に、自家用の小型除雪機を活用し、他人の家の除雪をしてくれた方にお礼を述べるなどしている。 ・農家だとトラクターを利用して除雪を行ってくれる場合もある。 ・町会の総会時に、高齢者の除雪が困難だというエピソードを話すことで、町会の方々も高齢者のお宅の除雪を気にかけてくれるようになって心強いと感じている。
<p>森山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが無償であることは、頼む側からすると頼みづらさもあると思う。 ・共有の雪を捨てる場所を設ける、融雪出来る場所を作るなど、長い期間をかけてでもいいので、雪が降っても行動を制限されないようなまちづくりを行って欲しい。
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">(2) 弘前市社会福祉センター利活用計画案について</p> <p>案件(2) 資料に基づき説明</p>
<p>藤田委員</p>	<p>【主な質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の全体的に照明が暗い。
<p>大湯委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉センターまでの交通手段が少ない。 ・施設を利用してもらうためにはまず交通手段が必要だと考える。 ・若い人は車があるので問題ないが、この施設を利用するひとは高齢者で、車が無い人が多い。
<p>小林委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉センターは、菊竹清訓が設計したものであり、モダン建築で非常に価値がある。 ・弘前市全体の福祉に留まらず、弘前市全体の文化的な価値を高めるためにそういった点も活用できればと考える。

事務局	協議会の会議録を HP で公開することを説明。次回の開催は令和6年秋頃とする。 < 散会 >
その他必要事項	傍聴者：報道機関 1名